





奇林雜木抄目錄

秋上

秋 結歌十卷

立秋 并早秋初秋早凍 結歌八十七卷

秋暑 結歌一卷

七夕 結歌八十五卷

秋 結歌四十五卷

秋 結歌五十五卷

女郎苑 結歌十八卷

荷 結歌廿四卷

荷萱 結歌八卷

蘭 結歌十三卷

草苑 結歌六十五卷

槿花 結歌十一卷

小鷹狩 結歌二卷

露 結歌廿七卷

虫 結歌八十五卷

鹿 結歌六十六卷

秋夕 結歌廿二卷

指事 結歌六卷

雁 結歌七十三卷

霧 結歌五十五卷





歌林雜木抄

秋上

○秋

ととく秋

西行集 人の心は秋の鳴き声とて悲をねり物秋とてさうり

秋とて

西行集 秋の心は人の心とて秋の心は人の心とて秋の心は人の心とて

あはれ

西行集 秋の心は人の心とて秋の心は人の心とて秋の心は人の心とて

秋の心

西行集 秋の心は人の心とて秋の心は人の心とて秋の心は人の心とて

人のあはれ

西行集 秋の心は人の心とて秋の心は人の心とて秋の心は人の心とて

うらみ日秋・くれむ日秋・秋の心・人の秋・うらむ心・かたがと秋

秋の心・秋の心・秋の心・秋の心・秋の心・秋の心・秋の心・秋の心

九月霜降

西行集 秋の心は人の心とて秋の心は人の心とて秋の心は人の心とて

山路秋行

西行集 秋の心は人の心とて秋の心は人の心とて秋の心は人の心とて















初秋朝

初秋朝風

初秋朝露

初秋夕

初秋晚涼

初秋夜

山初秋

杜初秋

冥初秋

初秋水

泉邊初秋

行路初秋

河初秋

玉露 今秋より吹くる風も朝方も初秋の如く初秋の如く

秋集 明後朝の涼も秋の涼の如く初秋の如く

日 今も本も秋風さらば秋の涼の如く初秋の如く

夕 秋夕も秋の涼の如く初秋の如く

夜 秋夜も秋の涼の如く初秋の如く

山 山初秋も秋の涼の如く初秋の如く

日 杜初秋も秋の涼の如く初秋の如く

日 冥初秋も秋の涼の如く初秋の如く

日 初秋水も秋の涼の如く初秋の如く

日 泉邊初秋も秋の涼の如く初秋の如く

日 行路初秋も秋の涼の如く初秋の如く

日 河初秋も秋の涼の如く初秋の如く

海初秋

河初秋

湖初秋

濟初秋

初初秋

野初秋

園初秋

初秋萩

初秋落

初秋松風

初秋衣

初秋扇

早秋月

千代 さよの風のひらく初秋の如く初秋の如く

日 河のほとりも初秋の如く初秋の如く

日 湖のほとりも初秋の如く初秋の如く

日 濟のほとりも初秋の如く初秋の如く

日 初秋の如く初秋の如く

日 野の初秋も初秋の如く初秋の如く

日 園の初秋も初秋の如く初秋の如く

日 初秋萩も初秋の如く初秋の如く

日 初秋落も初秋の如く初秋の如く

日 初秋松風も初秋の如く初秋の如く

日 初秋衣も初秋の如く初秋の如く

日 初秋扇も初秋の如く初秋の如く

日 早秋月も初秋の如く初秋の如く

新秋集

初



山中早秋

秋集 初秋のこぼりけしきあはれ初秋の初秋

野催早秋

日 初秋のこぼりけしきあはれ初秋の初秋

野催早秋

日 初秋のこぼりけしきあはれ初秋の初秋

行路早秋

日 初秋のこぼりけしきあはれ初秋の初秋

野亭早秋

日 初秋のこぼりけしきあはれ初秋の初秋

江早秋

日 初秋のこぼりけしきあはれ初秋の初秋

浦早秋

日 初秋のこぼりけしきあはれ初秋の初秋

遠江早秋

日 初秋のこぼりけしきあはれ初秋の初秋

山家早秋

日 初秋のこぼりけしきあはれ初秋の初秋

新秋日

日 初秋のこぼりけしきあはれ初秋の初秋

新秋凡

日 初秋のこぼりけしきあはれ初秋の初秋

新秋雲

日 初秋のこぼりけしきあはれ初秋の初秋

新秋多

日 初秋のこぼりけしきあはれ初秋の初秋

新秋夜涼

日 初秋のこぼりけしきあはれ初秋の初秋

新秋多

日 初秋のこぼりけしきあはれ初秋の初秋

田新秋

日 初秋のこぼりけしきあはれ初秋の初秋

早涼至

日 初秋のこぼりけしきあはれ初秋の初秋

早涼晴後至

日 初秋のこぼりけしきあはれ初秋の初秋

早涼知秋

日 初秋のこぼりけしきあはれ初秋の初秋

早涼早涼

日 初秋のこぼりけしきあはれ初秋の初秋

早涼思夜

日 初秋のこぼりけしきあはれ初秋の初秋



○残暑

夏も忘れぬ 立寄 夏も忘れぬ 秋の風も忘れぬ 秋の風も忘れぬ 秋の風も忘れぬ  
衣も忘れぬ 日 衣も忘れぬ 衣も忘れぬ 衣も忘れぬ 衣も忘れぬ  
あつれ 秋 あつれ あつれ あつれ あつれ あつれ

とてぬ 一人三行 とてぬ とてぬ とてぬ とてぬ とてぬ  
残暑如夏 千 残暑如夏 残暑如夏 残暑如夏 残暑如夏

○七夕

年小侍 原 年小侍 年小侍 年小侍 年小侍  
使の早 原 使の早 使の早 使の早 使の早  
天の玉床 原 天の玉床 天の玉床 天の玉床 天の玉床  
のれ衣 原 のれ衣 のれ衣 のれ衣 のれ衣

庭の灯

七夕の夜 原 七夕の夜 七夕の夜 七夕の夜 七夕の夜  
七夕の夜 原 七夕の夜 七夕の夜 七夕の夜 七夕の夜  
七夕の夜 原 七夕の夜 七夕の夜 七夕の夜 七夕の夜  
七夕の夜 原 七夕の夜 七夕の夜 七夕の夜 七夕の夜

天の川

天の川 原 天の川 天の川 天の川 天の川  
天の川 原 天の川 天の川 天の川 天の川  
天の川 原 天の川 天の川 天の川 天の川  
天の川 原 天の川 天の川 天の川 天の川

八十

八十 原 八十 八十 八十 八十  
八十 原 八十 八十 八十 八十  
八十 原 八十 八十 八十 八十  
八十 原 八十 八十 八十 八十



七夕のひまわり神  
ひまわり神

七夕のひまわり神の御風まつるらるるの別ありき  
ひまわり神の御風まつるらるる

天の川

七夕のころの川の川は流るる流るる流るる流るる  
内表の川は流るる流るる流るる流るる

衣

七夕のころの衣は流るる流るる流るる流るる  
新抄七夕の織るるる五百枚とらるる

布

七夕のころの布は流るる流るる流るる流るる  
七夕のころの布は流るる流るる流るる流るる

七の

七夕のころの七は流るる流るる流るる流るる  
七夕のころの七は流るる流るる流るる流るる

玉の

七夕のころの玉は流るる流るる流るる流るる  
七夕のころの玉は流るる流るる流るる流るる

つ

七夕のころのつは流るる流るる流るる流るる  
七夕のころのつは流るる流るる流るる流るる

天の川舟

七夕のころの天の川舟は流るる流るる流るる流るる  
七夕のころの天の川舟は流るる流るる流るる流るる

妻

七夕のころの妻は流るる流るる流るる流るる  
七夕のころの妻は流るる流るる流るる流るる

夕舟夜

夕舟夜の夕舟は流るる流るる流るる流るる  
夕舟夜の夕舟は流るる流るる流るる流るる

天の

七夕のころの天は流るる流るる流るる流るる  
七夕のころの天は流るる流るる流るる流るる

秋

七夕のころの秋は流るる流るる流るる流るる  
七夕のころの秋は流るる流るる流るる流るる

七

七夕のころの七は流るる流るる流るる流るる  
七夕のころの七は流るる流るる流るる流るる

う

七夕のころのうは流るる流るる流るる流るる  
七夕のころのうは流るる流るる流るる流るる

物

七夕のころの物は流るる流るる流るる流るる  
七夕のころの物は流るる流るる流るる流るる

鳥

七夕のころの鳥は流るる流るる流るる流るる  
七夕のころの鳥は流るる流るる流るる流るる

舟

七夕のころの舟は流るる流るる流るる流るる  
七夕のころの舟は流るる流るる流るる流るる

や

七夕のころのやは流るる流るる流るる流るる  
七夕のころのやは流るる流るる流るる流るる

磯

七夕のころの磯は流るる流るる流るる流るる  
七夕のころの磯は流るる流るる流るる流るる

あ

七夕のころのあは流るる流るる流るる流るる  
七夕のころのあは流るる流るる流るる流るる



ふれづとこと  
あかのり  
うらけり  
あんど  
あとの下紐  
舟はなれり  
一孝よこしり  
天の川  
一夜げま  
天のそと  
早のやどろ  
天のこよ  
  
久保は天の川をよけり  
あかのり  
うらけり  
あんど  
あとの下紐  
舟はなれり  
一孝よこしり  
天の川  
一夜げま  
天のそと  
早のやどろ  
天のこよ

舟のそと舟の  
のぢりぬ  
あんど  
あとの下紐  
舟はなれり  
一孝よこしり  
天の川  
一夜げま  
天のそと  
早のやどろ  
天のこよ







兼侍七夕

兼侍より送書と侍を

兼集

明日を侍天の川系村皇統よりいよと兼侍御殿の

七夕天

七夕ありけりこれに兼侍て先身侍一夫の川を

七夕月

はれぬおと早もあつて兼侍いよは兼侍の景日

七夕天象

早合と侍つとれ夫の川の傍らて兼侍の

七夕雲

兼侍もあつて兼侍と七夕の川の傍らて兼侍の

七夕風

天の河をあつて兼侍の川をいよと兼侍の

七夕露

七夕の雲より侍の傍より兼侍の物より兼侍

七夕霧

兼侍とあつて兼侍をいよと兼侍の

七夕雨

七夕の雲より兼侍の川をいよと兼侍の

七夕煙

兼侍の雲より兼侍の川をいよと兼侍の

七夕庚申

兼侍の雲より兼侍の川をいよと兼侍の

いよと兼侍の川をいよと兼侍の

七夕朝

後松

いよと兼侍の川をいよと兼侍の

七夕暮心

七夕の雲より兼侍の川をいよと兼侍の

七夕夜深

七夕の雲より兼侍の川をいよと兼侍の

七夕迎夜

七夕の雲より兼侍の川をいよと兼侍の

七夕地儀

七夕の雲より兼侍の川をいよと兼侍の

七夕橋

七夕の雲より兼侍の川をいよと兼侍の

七夕山

七夕の雲より兼侍の川をいよと兼侍の

野外七夕

七夕の雲より兼侍の川をいよと兼侍の

兼侍の雲より兼侍の川をいよと兼侍の



七夕河

七夕津

海名七夕

七夕湊

泉名七夕

名所七夕

用思七夕

兼思七夕

七夕契久

七夕割

七夕後物

七夕言志

新古今 せまうらぬ夜も天の年の後ればせまうらぬ夜も

後集 天の川の流れは七夕の年をせまうらぬ夜も

後集 世のあや夫のあやましく秋をせまうらぬ夜も

後集 くらうらぬ夜もせまうらぬ夜もよきよ浦の流る

後集 使ある雲の志をよらぬ夜もよきよ浦の流る

後集 早合の志をよらぬ夜もよきよ浦の流る

後集 七夕の夜よらぬ夜もよきよ浦の流る

後集 兼思の言やまて天川のゆふの川の中をひら

後集 秋も流るるや七夕の夜よらぬ夜もよきよ浦の流る

後集 明けの川の流るるや七夕の夜よらぬ夜もよきよ浦の流る

後集 言志の七夕の言やまて天川のゆふの川の中をひら

懐牛女言志

七夕思

七夕植物

七夕即夏

七夕竹

七夕草

七夕草花

潤月七夕

七夕秋

後集 七夕の言やまて天川のゆふの川の中をひら

後集 懐牛女言志の言やまて天川のゆふの川の中をひら

後集 七夕の言やまて天川のゆふの川の中をひら

後集 七夕の言やまて天川のゆふの川の中をひら

後集 七夕の言やまて天川のゆふの川の中をひら

後集 七夕の言やまて天川のゆふの川の中をひら

後集 七夕の言やまて天川のゆふの川の中をひら

後集 七夕の言やまて天川のゆふの川の中をひら

後集 七夕の言やまて天川のゆふの川の中をひら

後集 七夕の言やまて天川のゆふの川の中をひら

後集 七夕の言やまて天川のゆふの川の中をひら



七夕苜  
七夕苜  
七夕苜  
七夕苜  
七夕熊  
七夕馬  
七夕猪  
七夕鹿  
七夕蜘蛛  
七夕櫛  
七夕枕

日 今和あふ守らるるはれあひく若年の星まらるる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の本枝もらるる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の二の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の三の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の四の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の五の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の六の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の七の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の八の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の九の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の十の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の十一の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の十二の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の十三の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の十四の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の十五の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の十六の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の十七の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の十八の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の十九の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の二十の星の秋もらる日

七夕衣  
七夕線  
七夕扇  
七夕船  
七夕袋  
七夕礎  
七夕管弦  
羈中七夕  
七夕人交  
七夕祝  
乞巧奠  
早河秋具

日 夕夕の秋時えらる櫛の二十の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の二十一の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の二十二の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の二十三の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の二十四の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の二十五の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の二十六の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の二十七の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の二十八の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の二十九の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の三十の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の三十一の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の三十二の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の三十三の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の三十四の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の三十五の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の三十六の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の三十七の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の三十八の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の三十九の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の四十の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の四十一の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の四十二の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の四十三の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の四十四の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の四十五の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の四十六の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の四十七の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の四十八の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の四十九の星の秋もらる日  
日 夕夕の秋時えらる櫛の五十の星の秋もらる日



守河落簷 日 みるる名独も添り天川流るる水の影乃玉水 政者

早夕灯火 日 早とあさむの灯九空を亦空あふ夜もさよわし 後宿夜

二宿適逢 日 七々のまればあふんどちりわづらひ

舟前望三宿 日 初宿の舟中將さす守会の上子もさそれ末の川 政者

二宿期秋 日 後若よ侍公のくまひりし遊風吹は守会の上 景氏

二宿侍契 日 ちあつははばらふか天川舟中つら乃秋の夕うせ 後宿夜

織女期秋 日 どり姫よりあふもか天川夕うせ望りて夜せさど 文補

織女為雲衣 日 七々の衣よはせそらうしはとあふぬ恨せまや 後夜

織女恨曙 日 天の衣よはせそらん秋曙のとりも兼と侍と侍る 道宿夜

雲方織女衣 日 衣くのうとせはうは天河初宿と雲方の衣せま 後宿夜

織女 日 凡と七々の宿よかまをん 後宿夜

為宿 日 いひつらひんらうとはは秋凡と七々のつら乃宿はいて

織女情別 日 七々の衣よはせかふあふて別さくあまこととら 道宿夜

今宵織女 日 望りされそふの望は七々の宿とあふ勢のほ 日

後天河 日 七々の衣せまんと秋のうとらと侍る

牛女後秋来 日 七々の衣せまんと秋のうとらと侍る

憶牛女姿様 日 七々の衣せまんと秋のうとらと侍る

夜深憶半女 日 七々の衣せまんと秋のうとらと侍る

送霽月明 日 天川昔夕かり流るる夜もさそれ乃宿はいて

○萩

凡乃下萩 日 朝暮のうとらあふまうとらと侍る

凡の吹より 日 萩のうとら風の吹よりとらと侍る

萩のら極 日 萩のうとら萩のうとらと侍る

和元三年

法成寺

入る者







遠萩

近萩

暖中萩

暖萩風

朝萩

夕萩風

夜萩

庭萩

夜深中萩

野徑萩風

江萩

江邊暖萩

海邊中萩

狂林七后 遠萩のそよぐ音とて雅位軍は風涼とらん 賢后

白河七后 近萩のよしの好風青とて 枕又別るを風萩系為氏

朝十 暖中萩の涙乃夢もあつと 老の待望の萩の瓦家隆

夜集 暖萩風の光りてんその暖の差受てけしとけし萩の風 山徹

日 今朝これ萩を吹く音より 乱も嵐風の萩 通を後

日 吹く交家んももうと萩と恵ひよとる萩の夕夕せ 山徹

日 凡今萩ふる弁て萩の波おきとるれいとの演 通を後

十 夕萩風のそよぐ音とて 長萩の交と萩の夕夕せ 山徹

夜集 夜深中萩のそよぐ音とて 萩の青と 道を後

日 野徑萩風のそよぐ音とて 萩の青と 道を後

巻七后 江萩のそよぐ音とて 萩の青と 道を後

日 江邊暖萩のそよぐ音とて 萩の青と 道を後

日 海邊中萩のそよぐ音とて 萩の青と 道を後

江亭萩

古心萩

山石萩

閑居萩

草庵萩

隣家吹萩

簷下萩

幽居萩

荒蕪萩

砌下萩

獨守萩

夜集 江亭と江のそよぐ音とて

日 秀そよぐ入江のやしの萩風は萩のそよぐよしの浦波 山徹

日 やとこれい昔萩系は萩のそよぐ音とて 萩の風 山徹

狂林七后 山石萩のそよぐ音とて 萩の風 山徹

夜集 閑居萩のそよぐ音とて 萩の風 山徹

日 草庵萩のそよぐ音とて 萩の風 山徹

日 隣家吹萩のそよぐ音とて 萩の風 山徹

日 簷下萩のそよぐ音とて 萩の風 山徹

文相七 幽居萩のそよぐ音とて 萩の風 山徹

日 荒蕪萩のそよぐ音とて 萩の風 山徹

日 砌下萩のそよぐ音とて 萩の風 山徹

日 獨守萩のそよぐ音とて 萩の風 山徹

日 萩のそよぐ音とて 萩の風 山徹















野蔭似錦

衣集 今こそ秋の日は洗ふく蔭蔭候のよき有る物をあり

野亭夕蔭

新古今 夕蔭の秋の志蔭と使して夕蔭かゆく蔭かゆく 雅家

蔭蔭野亭

歌 野の蔭乃あこりよ蔭こらこら

蔭蔭野

日 蔭蔭の蔭乃あこりよ蔭こらこら

路蔭

日 蔭蔭の蔭乃あこりよ蔭こらこら

路頭蔭

歌 蔭蔭の蔭乃あこりよ蔭こらこら

行路蔭

歌 蔭蔭の蔭乃あこりよ蔭こらこら

各行見蔭

歌 蔭蔭の蔭乃あこりよ蔭こらこら

依蔭左路

歌 蔭蔭の蔭乃あこりよ蔭こらこら

古蔭蔭

歌 蔭蔭の蔭乃あこりよ蔭こらこら

古蔭蔭

歌 蔭蔭の蔭乃あこりよ蔭こらこら

古蔭蔭

歌 蔭蔭の蔭乃あこりよ蔭こらこら

古蔭蔭

歌 蔭蔭の蔭乃あこりよ蔭こらこら

蔭蔭水

歌 蔭蔭の蔭乃あこりよ蔭こらこら

蔭蔭水

歌 蔭蔭の蔭乃あこりよ蔭こらこら

蔭蔭水

歌 蔭蔭の蔭乃あこりよ蔭こらこら

蔭蔭水

歌 蔭蔭の蔭乃あこりよ蔭こらこら

蔭蔭水

歌 蔭蔭の蔭乃あこりよ蔭こらこら

蔭蔭水

歌 蔭蔭の蔭乃あこりよ蔭こらこら

川蔭

歌 蔭蔭の蔭乃あこりよ蔭こらこら

蔭蔭

歌 蔭蔭の蔭乃あこりよ蔭こらこら

蔭蔭

歌 蔭蔭の蔭乃あこりよ蔭こらこら

蔭蔭

歌 蔭蔭の蔭乃あこりよ蔭こらこら

蔭蔭

歌 蔭蔭の蔭乃あこりよ蔭こらこら

蔭蔭

歌 蔭蔭の蔭乃あこりよ蔭こらこら

蔭蔭

歌 蔭蔭の蔭乃あこりよ蔭こらこら



を以て蘇

隣を蘇

庭蘇

蘇後社

蘇欲散

蘇欲按

蘇散風

蘇散浸浸

名所蘇

蘇盛侍鹿

はまの志蘇もむらさき衣ひとわさて秋の今も昔も後蘇也

蘇後社に宿の若らさ蒼蒼とく月一宿ある秋秋の心 隆親

いねくつて其の社をわじりくつて蘇ある庭の蘇秋の心 隆親

蘇の庭の社よりつらき

お前の心もあつた社もあつた地も我も蘇も蘇の心もあつた後蘇後

蘇後社に宿の若らさ蒼蒼とく月一宿ある秋秋の心 隆親

いねくつて其の社をわじりくつて蘇ある庭の蘇秋の心 隆親

蘇の庭の社よりつらき

お前の心もあつた社もあつた地も我も蘇も蘇の心もあつた後蘇後

蘇後社に宿の若らさ蒼蒼とく月一宿ある秋秋の心 隆親

秋情寄蘇

○女所蘇

おあつたのづ

をりくのづ

おのむづづ

おのむひも

秋の田の

おのむづづ

おのむづづ

おのむづづ

おのむづづ

人の秋乃ん蘇のどよりつらきと蘇と考らうか

秋とりの我を蘇のゆふ蘇蘇これ蘇蘇の蘇と考らうか

おあつたのづ

をりくのづ

おのむづづ

おのむひも

秋の田の

おのむづづ

おのむづづ

おのむづづ

おのむづづ

おのむづづ

蘇乃ん

蘇乃ん







とくさ交 歌集 新古今の歌の神代乃いふ人新古今の歌をきく 土門院  
かむりて糸 新古今 梅乃よあかき糸のいと長き糸のいとあかき 衣着有  
かむりて糸 新古今 梅乃よあかき糸のいと長き糸のいとあかき 衣着有

又づ 日 くれまらりかむりて糸のいと長き糸のいとあかき 衣着有  
あのかの 日 こころの糸あかりのいと長き糸のいとあかき 衣着有

あのかの 日 こころの糸あかりのいと長き糸のいとあかき 衣着有  
あのかの 日 こころの糸あかりのいと長き糸のいとあかき 衣着有

あのかの 日 こころの糸あかりのいと長き糸のいとあかき 衣着有  
あのかの 日 こころの糸あかりのいと長き糸のいとあかき 衣着有

あのかの 日 こころの糸あかりのいと長き糸のいとあかき 衣着有  
あのかの 日 こころの糸あかりのいと長き糸のいとあかき 衣着有

あのかの 日 こころの糸あかりのいと長き糸のいとあかき 衣着有  
あのかの 日 こころの糸あかりのいと長き糸のいとあかき 衣着有

いとくさ交 歌集 新古今の歌の神代乃いふ人新古今の歌をきく 土門院

かむりて糸 新古今 梅乃よあかき糸のいと長き糸のいとあかき 衣着有

かむりて糸 新古今 梅乃よあかき糸のいと長き糸のいとあかき 衣着有

かむりて糸 新古今 梅乃よあかき糸のいと長き糸のいとあかき 衣着有

かむりて糸 新古今 梅乃よあかき糸のいと長き糸のいとあかき 衣着有

かむりて糸 新古今 梅乃よあかき糸のいと長き糸のいとあかき 衣着有

かむりて糸 新古今 梅乃よあかき糸のいと長き糸のいとあかき 衣着有







為爲墻

籬為

為似社

為のちりりあひてのつら垣とかなはし  
凡籬をひく芭の芭はつら社をてあとも人後初後  
白川七言  
ちよつらきまゝ人の心驚く社とてう社風のやうに

○荊萱

名が下葉 此集 芭のやえう下葉の秋のあゆう定の乱なりなり  
あざうらまを 陸 のこまきうらまあて乱るるやれぬと  
おれろ 朝六 おれろ下の乱はほきてわよまらあとのつら  
あづか 秋集 秋はあつたまらうの荊萱の下葉まらあ  
あよひつら 史本 まらあまらうつらあつらあ  
あざ 秋集 秋はあつたまらうの荊萱の下葉まらあ  
あざ 小集 秋はあつたまらうの荊萱の下葉まらあ  
あざ 秋集 秋はあつたまらうの荊萱の下葉まらあ  
あざ 秋集 秋はあつたまらうの荊萱の下葉まらあ

芸荊萱

庭前荊萱

閑庭荊萱

荊萱乱籬

古籬荊萱

荊萱乱穂

○荊

さいのの 金條 さや川のほまきささるるあはのあてやうん  
法 法 の他乃荊はまきささるるあはのあてやうん  
日 史本 鄭文之妻燕姬名ま茶とえうら  
おめざ 史本 荊の御乃荊  
芝の御乃荊







暮乃草花

千秋 秋の夕べにそよぐ花の影を白ひな名も知らず社とれ 宇佐良

侍草花

あふらあふらういふふらんらの秋の影もほろけ 成季

草花告秋

草花の咲きあけ秋と告ぐ 全

草花侘用

梅鹿の影とてのうら秋花をゆく 以徳院

草花終用

あふらあふらういふふらんらの秋の影もほろけ 成季

草花初用

あふらあふらういふふらんらの秋の影もほろけ 成季

草花早

あふらあふらういふふらんらの秋の影もほろけ 成季

始伊草花

あふらあふらういふふらんらの秋の影もほろけ 成季

草花未通

あふらあふらういふふらんらの秋の影もほろけ 成季

草花盛

あふらあふらういふふらんらの秋の影もほろけ 成季

草花多

あふらあふらういふふらんらの秋の影もほろけ 成季

草花得時

あふらあふらういふふらんらの秋の影もほろけ 成季

月并草花

あふらあふらういふふらんらの秋の影もほろけ 成季

月照草花

あふらあふらういふふらんらの秋の影もほろけ 成季

月并草花

あふらあふらういふふらんらの秋の影もほろけ 成季

月照草花

あふらあふらういふふらんらの秋の影もほろけ 成季

月并草花

あふらあふらういふふらんらの秋の影もほろけ 成季

月照草花

あふらあふらういふふらんらの秋の影もほろけ 成季

月并草花

あふらあふらういふふらんらの秋の影もほろけ 成季

月照草花

あふらあふらういふふらんらの秋の影もほろけ 成季

月并草花

あふらあふらういふふらんらの秋の影もほろけ 成季

月照草花

あふらあふらういふふらんらの秋の影もほろけ 成季

新刊和歌

十九



草花家原

凡雅 秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣

朝草花

秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣

夕草花

秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣

野徑草花

秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣

草花後那

秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣

行路草花

秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣

草花遮路

秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣

水色草花

秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣

草花隱水

秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣

山家草花

秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣

名号

秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣

草花香

秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣

庭盡草花

秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣

草花後那

秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣

宋庭草花

秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣

古砌草花

秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣

院秋花

秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣

丹前秋花

秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣

秋花開花

秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣

秋花家重鮮

秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣

山中秋花

秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣

秋花庭路

秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣

行路秋花

秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣

山边秋花

秋の萩の草と秋の萩と云ふや玉川の水俣



秋花廻水

水のめぐりよ候はらむ

菊家花思野

言ふらん菊の花はなれど思ふは中世水枯ふはに極めえ  
秋常の花とて秋花はこそ思ひやう

秋花不一

秋花は不一種ありあはれとて思ふは  
秋は心は種ありあはれとて思ふは

秋花多々

秋は心は種ありあはれとて思ふは  
秋は心は種ありあはれとて思ふは

秋花勝春花

秋の草花は春の木の心よりちかきりこころ  
小菖蒲柳さくらとて思ふは世春の物もさしとて思ふは

秋花催思

秋の心は種ありあはれとて思ふは  
秋の心は種ありあはれとて思ふは

近世野花

秋の心は種ありあはれとて思ふは  
秋の心は種ありあはれとて思ふは

凡碎野花

秋の心は種ありあはれとて思ふは  
秋の心は種ありあはれとて思ふは

雪乃野花

雪乃の心は種ありあはれとて思ふは  
雪乃の心は種ありあはれとて思ふは

終日思野花

終日思野花の心は種ありあはれとて思ふは  
終日思野花の心は種ありあはれとて思ふは

野花暮後

野花暮後の心は種ありあはれとて思ふは  
野花暮後の心は種ありあはれとて思ふは

使野花路

使野花路の心は種ありあはれとて思ふは  
使野花路の心は種ありあはれとて思ふは

野花後庭

野花後庭の心は種ありあはれとて思ふは  
野花後庭の心は種ありあはれとて思ふは

野花窓客

野花窓客の心は種ありあはれとて思ふは  
野花窓客の心は種ありあはれとて思ふは

○ 槿花

槿花の心は種ありあはれとて思ふは  
槿花の心は種ありあはれとて思ふは















庭草芳流

庭草と押さへしはしら木敷を庭とぬきたるを庭草流

閑庭芳流

新集 庭の西より庭草をよこしてきて人のまへに敷るを閑庭

荒庭芳流

本集 庭の西より庭草をよこしてきて人のまへに敷るを閑庭

草生芳

庭の西より庭草をよこしてきて人のまへに敷るを閑庭

竹芳

日 呉竹の末とて此の竹をよこして敷るのよしとて此

兼芳似玉

日 兼の結乃れはまじりて草のよしとて此の竹をよこして敷る

芳草似玉

日 兼の結乃れはまじりて草のよしとて此の竹をよこして敷る

菖と芳

日 兼の結乃れはまじりて草のよしとて此の竹をよこして敷る

菖便芳

日 兼の結乃れはまじりて草のよしとて此の竹をよこして敷る

客衣露重

客衣の露重なるを竹に

就上芳

客衣の露重なるを竹に

枕芳

客衣の露重なるを竹に

芳如玉

條のよき今より芳けおられまじりて敷るを閑庭

秋秋玉

夜集 庭の西より庭草をよこしてきて人のまへに敷るを閑庭

秋芽芳

夜集 庭の西より庭草をよこしてきて人のまへに敷るを閑庭

○虫

虫の結乃れはまじりて草のよしとて此の竹をよこして敷る

虫の結乃れはまじりて草のよしとて此の竹をよこして敷る

虫の結乃れはまじりて草のよしとて此の竹をよこして敷る

虫の結乃れはまじりて草のよしとて此の竹をよこして敷る

虫の結乃れはまじりて草のよしとて此の竹をよこして敷る

虫の結乃れはまじりて草のよしとて此の竹をよこして敷る

虫の結乃れはまじりて草のよしとて此の竹をよこして敷る

虫の結乃れはまじりて草のよしとて此の竹をよこして敷る

虫の結乃れはまじりて草のよしとて此の竹をよこして敷る



とびづ

日 好の秋のあそびとふきさしき村毎ははれ院にふとふか

くらくら

日 秋のあそびとふきさしき村毎ははれ院にふとふか

ふよきとら

詩集 周は七月在野八月在宇九月在宮十月在蟄

入我床下とささきふよきとらハタはあらん

床のあはれとささきふよきとらハタはあらん

枕の下

日 夕これのささきとらとささきとらハタはあらん

舟の秋の聲

日 秋の舟の舟の秋の聲なくはむの秋の聲とささきとら

ゆりた下なる聲

日 秋の舟の舟の秋の聲なくはむの秋の聲とささきとら

木らうりし

日 秋の舟の舟の秋の聲なくはむの秋の聲とささきとら

おひし

日 秋の舟の舟の秋の聲なくはむの秋の聲とささきとら

しりの衣

日 秋の舟の舟の秋の聲なくはむの秋の聲とささきとら

声のあや

日 秋の舟の舟の秋の聲なくはむの秋の聲とささきとら

あ乃やどり 新古今 八き新古今 建三内 秋のあそびとふきさしき村毎ははれ院にふとふか

あそびとふきさしき村毎ははれ院にふとふか 秋のあそびとふきさしき村毎ははれ院にふとふか

新古今

新古今



虫声那

虫声何方

虫声幽

月声虫

风中虫声

虫声依风

虫声中

虫声中

虫声中

虫声中

暖添虫声

秋の虫声のさびし

秋の虫声のさびし 長くはつと秋の良夜

秋の虫声のさびし 長くはつと秋の良夜

秋の虫声のさびし 長くはつと秋の良夜

秋の虫声のさびし 長くはつと秋の良夜

秋の虫声のさびし 長くはつと秋の良夜

秋の虫声のさびし 長くはつと秋の良夜

秋の虫声のさびし 長くはつと秋の良夜

秋の虫声のさびし 長くはつと秋の良夜

秋の虫声のさびし 長くはつと秋の良夜

秋の虫声のさびし 長くはつと秋の良夜

虫声

虫声

虫声

虫声

虫声

虫声

虫声

虫声

虫声

虫声

虫声

虫声

秋の虫声のさびし 長くはつと秋の良夜

秋の虫声のさびし 長くはつと秋の良夜

秋の虫声のさびし 長くはつと秋の良夜

秋の虫声のさびし 長くはつと秋の良夜

秋の虫声のさびし 長くはつと秋の良夜

秋の虫声のさびし 長くはつと秋の良夜

秋の虫声のさびし 長くはつと秋の良夜

秋の虫声のさびし 長くはつと秋の良夜

秋の虫声のさびし 長くはつと秋の良夜

秋の虫声のさびし 長くはつと秋の良夜

秋の虫声のさびし 長くはつと秋の良夜

秋の虫声のさびし 長くはつと秋の良夜



行路の虫

暮路の虫

鳴る虫

禁煙の虫

古の虫

山家の虫

寺田の虫

田舎の虫

菴の虫

荒屋の虫

庵の虫

行路の虫の書きよきものなりて秋の虫

暮路の虫の書きよきものなりて秋の虫

鳴る虫の書きよきものなりて秋の虫

禁煙の虫の書きよきものなりて秋の虫

古の虫の書きよきものなりて秋の虫

山家の虫の書きよきものなりて秋の虫

寺田の虫の書きよきものなりて秋の虫

田舎の虫の書きよきものなりて秋の虫

菴の虫の書きよきものなりて秋の虫

荒屋の虫の書きよきものなりて秋の虫

庵の虫の書きよきものなりて秋の虫

定て居る虫

虫声の御表

後芽の虫

最出

最表の虫声

最近の虫

最底の虫

最端の虫怨

雲草の虫

日 秋の虫の書きよきものなりて秋の虫

秋の虫の書きよきものなりて秋の虫

秋の虫の書きよきものなりて秋の虫

秋の虫の書きよきものなりて秋の虫

秋の虫の書きよきものなりて秋の虫

秋の虫の書きよきものなりて秋の虫

秋の虫の書きよきものなりて秋の虫

秋の虫の書きよきものなりて秋の虫

秋の虫の書きよきものなりて秋の虫

秋の虫の書きよきものなりて秋の虫

秋の虫の書きよきものなりて秋の虫



籠中虫

籠下つ虫

床間虫

困虫

独坐虫

虫為夜友

夜更虫

虫声濯溪

枕上虫

虫声入琴

初秋の虫の音根よ虫の音はつれは六柱塔の心 道玄後

日 多てたむまよせぬの音すても秋てゆる虫の音介 後初集

れ 此は落る秋の音のりかき洞をならむ松虫の音 定家

れ 万の字んかまこれ

れ 夜ふまよしてとらふ秋風よ虫も鳴らう初集

れ 初秋の音はつれは六柱塔の心 道玄後

れ 昔より初集の初まよせて夜とつくとさうれ 後初集

れ 秋の音はつれは六柱塔の心 道玄後

れ 上の字んかまこれ

れ うら秋の音とあまうらや梅も近くおれら 後初集

れ 虫の音のこのねよおれら 後初集

旅店の虫

旅館の虫

旅宿の虫

虫声借秋

虫声欲枯

暮秋虫声

松虫

月夜松虫

松虫

月夜松虫

松虫

日 旅店の虫のやうりく

日 旅館の虫のやうりく

日 旅宿の虫のやうりく

日 虫の秋と借る

日 虫の秋と借る

日 虫の秋と借る

日 虫の秋と借る

日 虫の秋と借る

日 虫の秋と借る

日 虫の秋と借る

日 虫の秋と借る







鹿の初多  
 ういよと鳴  
 初よりして  
 暮やとせり  
 秋のしり  
 よら乃若也  
 志ぐしむ  
 秋のこゑ  
 秋の心  
 やつと秋草  
 ちひら  
 鹿の初多  
 ういよと鳴  
 初よりして  
 暮やとせり  
 秋のしり  
 よら乃若也  
 志ぐしむ  
 秋のこゑ  
 秋の心  
 やつと秋草  
 ちひら

洞衣鹿  
 花子起つて鹿交春  
 鹿の初多  
 ういよと鳴  
 初よりして  
 暮やとせり  
 秋のしり  
 よら乃若也  
 志ぐしむ  
 秋のこゑ  
 秋の心  
 やつと秋草  
 ちひら











床致る友

寝る人鹿

鹿声催淡

鹿声稀

羈中遠鹿

旅月は鹿

旅宿鹿

○秋夕

秋夕の夕

秋の夕

みほこと夕

秋夕の夕 入夜

秋の夕 鎌倉

秋夕の夕 有忠

秋夕の夕 有忠

秋夕の夕 有忠

秋夕の夕 有忠

秋夕の夕 有忠

秋夕の夕 有忠

秋夕の夕 有忠

秋夕の夕 有忠

秋夕の夕 有忠

秋夕の夕 有忠

秋夕の夕 有忠

秋夕の夕

秋夕の夕

秋夕の夕 有忠

秋夕の夕 有忠

秋夕の夕 有忠

秋夕の夕 有忠

秋夕の夕 有忠

秋夕の夕 有忠

秋夕の夕 有忠

秋夕の夕 有忠

秋夕の夕 有忠

秋夕の夕 有忠

秋夕の夕 有忠

秋夕の夕 有忠

秋夕の夕 有忠



秋夕雨

秋夕電

秋夕夢

山秋夕

深山秋夕

野秋夕

野徑秋夕

野亭秋夕

園屋秋夕

橋上秋夕

水邊秋夕

海邊秋夕

海路秋夕

秋の葉乃ち落ちて秋の雨人泪落しも知らずを後初夜後

秋夕電 融光

秋夕夢 那言

山秋夕 宗徳

深山秋夕 際兼

野秋夕 永

野徑秋夕 長

野亭秋夕 雅世

園屋秋夕 改爲

橋上秋夕 後初夜後

水邊秋夕 際兼

海邊秋夕 遺光

海路秋夕 遺光

浦秋夕

古渡秋夕

古寺秋夕

古郷秋夕

水々秋夕

遠村秋夕

山家秋夕

園居秋夕

米岳秋夕

田家秋夕

秋夕情

秋夕傷心

浦秋夕 忠信

古渡秋夕 道光

古寺秋夕 日

古郷秋夕 日

水々秋夕 雅世

遠村秋夕 雅世

山家秋夕 源守法

園居秋夕 道光

米岳秋夕 道光

田家秋夕 道光

秋夕情 道光

秋夕傷心 道光

新古今

十一



秋夕感思

是も秋の夕の感長きこといひ

秋夕涙

迷ふ月一宵と流るは浮世也も秋の夕暮 政為

秋夕催涙

のれかまをまの夕暮も日一浮世の秋の泪ハ 景集

旅秋夕

旅衣思ひくもくも秋風をそ夕暮の垂宿なき 後物後

羈中秋夕

たのむ顔そらぬ若くも夕暮の泪せし身成 陳兼

名所秋夕

あつとくもつはに水苔の雲乃漆の秋の夕ハ 道玄

○稲妻

りうらあつち

稲のちかみの屋の原とあつちの稲妻とを社 陸原

稲妻うらふ

夕暮れや荒るる宿ぬくも稲妻通ふ物 女房

わのうまあつち

夕暮の原にあらぬ宿も夕暮れもあつちの稲妻 光俊

雲のうらな

村のうらなは秋の夕の稲妻とあつちの稲妻 光俊

ひらりそと

雲をよみ輝の里の村の夕の稲妻とあつちの稲妻 知家

・夜の稲妻

・小葉のいあつち

・秋乃いあつち

いよあつち

雲乃稲妻

村の夕の稲妻とあつちの稲妻とあつちの稲妻 道玄

夕稲妻

夕暮れやあつちの稲妻とあつちの稲妻 正徳

炭稲妻

夕暮れやあつちの稲妻とあつちの稲妻 正徳

田稲妻

夕暮れやあつちの稲妻とあつちの稲妻 正徳

田上稲妻

夕暮れやあつちの稲妻とあつちの稲妻 正徳

暗稲妻

夕暮れやあつちの稲妻とあつちの稲妻 正徳

○雁

神とさうり

守小田の稲妻の稲妻とあつちの稲妻 為平

家集

あつちの稲妻とあつちの稲妻とあつちの稲妻 雅世



かよかみ

新十ヤイ 夜はしの早田り合のりしと書あは流るなより之 彦氏

声と舟

友リ丁と舟よまてててて 秋ぬまあつとちよとてくら舟天のとは丁是有れ 若根船

白雲まね

白のまね舟くら 花丁のねまててて秋のよ舟 彦氏

明後丁の洞

明後丁の洞もあつらん物もあ有れ秋の上のあ 彦氏

丁令のづつ

丁令のづつ 小舟中とあつたあつて丁令のづつめくあ有れ 彦氏

うらうら

うらうらと舟れうらうらのあまやうててて

うらうら

うらうらと舟れうらうらのあまやうててて

うらうら

うらうらと舟れうらうらのあまやうててて

うらうら

うらうらと舟れうらうらのあまやうててて

うらうら

うらうらと舟れうらうらのあまやうててて

うらうら

うらうらと舟れうらうらのあまやうててて

うらうら

うらうらと舟れうらうらのあまやうててて

うらうら

うらうらと舟れうらうらのあまやうててて

うらうら

うらうらと舟れうらうらのあまやうててて

うらうら

うらうらと舟れうらうらのあまやうててて

うらうら

うらうらと舟れうらうらのあまやうててて

うらうら

うらうらと舟れうらうらのあまやうててて

うらうら

うらうらと舟れうらうらのあまやうててて

うらうら

うらうらと舟れうらうらのあまやうててて

うらうら

うらうらと舟れうらうらのあまやうててて

うらうら

うらうらと舟れうらうらのあまやうててて

うらうら

うらうらと舟れうらうらのあまやうててて

うらうら

うらうらと舟れうらうらのあまやうててて

新木抄

新木抄











河と初丁

秋集 秋の初丁はあつり川の水の衣なり今今そ時を 徹

山路夕丁

秋集 夕の山路の夕の影をみれば夕の影をみれば夕の影をみれば 徹

岩初丁

秋集 岩の初丁はあつり川の水の衣なり今今そ時を 徹

橋辺丁

秋集 橋の辺丁はあつり川の水の衣なり今今そ時を 徹

一行写水

秋集 一行の写水はあつり川の水の衣なり今今そ時を 徹

江舟丁

秋集 江の舟丁はあつり川の水の衣なり今今そ時を 徹

江上丁

秋集 江の上丁はあつり川の水の衣なり今今そ時を 徹

海辺丁

秋集 海の辺丁はあつり川の水の衣なり今今そ時を 徹

湖上丁

秋集 湖の上丁はあつり川の水の衣なり今今そ時を 徹

隣畔丁

秋集 隣の畔丁はあつり川の水の衣なり今今そ時を 徹

丁と漆

秋集 丁と漆はあつり川の水の衣なり今今そ時を 徹

夜泊丁

秋集 夜の泊丁はあつり川の水の衣なり今今そ時を 徹

水口丁

秋集 水口の丁はあつり川の水の衣なり今今そ時を 徹

田上丁

秋集 田上の丁はあつり川の水の衣なり今今そ時を 徹

田下丁

秋集 田下の丁はあつり川の水の衣なり今今そ時を 徹

山吹初丁

秋集 山吹の初丁はあつり川の水の衣なり今今そ時を 徹

芦辺丁

秋集 芦の辺丁はあつり川の水の衣なり今今そ時を 徹

馬丁

秋集 馬の丁はあつり川の水の衣なり今今そ時を 徹

船中初丁

秋集 船中の初丁はあつり川の水の衣なり今今そ時を 徹

丁似櫓声

秋集 丁似櫓の聲はあつり川の水の衣なり今今そ時を 徹

丁作字

秋集 丁作の字はあつり川の水の衣なり今今そ時を 徹

夏後丁

秋集 夏の後の丁はあつり川の水の衣なり今今そ時を 徹











山旁

巖山旁

雲山龍山

山影旁

をこし山旁

深山旁

材旁

杜間旁

林旁

野旁

旁隔野行

夜集 夜より山旁のりて秋のよも濃もよむ伊勢の山

志根の山に音一て山かの川旁くく秋の山かの山

山影の山に音一て山かの川旁くく秋の山かの山

山影の山に音一て山かの川旁くく秋の山かの山

山影の山に音一て山かの川旁くく秋の山かの山

山影の山に音一て山かの川旁くく秋の山かの山

山影の山に音一て山かの川旁くく秋の山かの山

山影の山に音一て山かの川旁くく秋の山かの山

山影の山に音一て山かの川旁くく秋の山かの山

山影の山に音一て山かの川旁くく秋の山かの山

山影の山に音一て山かの川旁くく秋の山かの山

行路旁

園路旁

園路旁

園路旁

園路旁

園路旁

園路旁

園路旁

園路旁

園路旁

園路旁

園路旁

夜集 秋のよも濃もよむ伊勢の山

志根の山に音一て山かの川旁くく秋の山かの山

山影の山に音一て山かの川旁くく秋の山かの山

山影の山に音一て山かの川旁くく秋の山かの山

山影の山に音一て山かの川旁くく秋の山かの山

山影の山に音一て山かの川旁くく秋の山かの山

山影の山に音一て山かの川旁くく秋の山かの山

山影の山に音一て山かの川旁くく秋の山かの山

山影の山に音一て山かの川旁くく秋の山かの山

山影の山に音一て山かの川旁くく秋の山かの山

山影の山に音一て山かの川旁くく秋の山かの山

山影の山に音一て山かの川旁くく秋の山かの山

山影の山に音一て山かの川旁くく秋の山かの山



海辺旁

今日又この浦波打そめてなりもかき秋の夕旁

海辺吹旁

貝のふじと塔于舟とてつら難波あらぬ昔人は遠く夕

洲と鳴旁

之をの浦ややてつらつら秋も鏡の有明の

浦旁

こととわらふとせぬ昔の浦よりけし定は浦舟

暮秋河旁

今いとくぬる秋のさう衣川波旁とてわけて

傍旁

沖つ舟今もあはれつらつらつら昔の迷ひは

傍旁

つてらん志とせぬのうらやうとせぬ浦の初

古渡旁

古の字もかへつらつらつら昔の迷ひは

旁中求泊

海路の旁乃中子泊とて

田と秋旁

朝の秋とてつらつらつら秋のわらわ

古宮旁

古宮の昔の宮をく秋津宮とて

とてふに古宮の宮の初もかき秋の夕旁

故心旁

朝波より吹く風もあはれつらつら

古寺旁

れうらうらうの松のあはれつらつら

旁浦山寺

照月とてつらつらつら秋の

困所旁深

旁かてつらつらつら秋の

山鏡旁

山鏡とてつらつらつら

山夜旁

山夜に秋とてつらつらつら

甲夜旁

夜に荒のつらつらつら

村旁

夜にのつらつらつら

遠村旁

いとつらつらつら

旁浦行客

夜集り人つらつらつら

旁底筏

筏士よつらつらつら

旁乃舟

朝の心もつらつらつら







